

研究協力をお願い

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

胸部単純X線撮影(側面)における介助者の水晶体被ばくについて

1. 研究の対象および研究対象期間

2019年4月1日から2023年3月31日までの昭和大学横浜市北部病院の診療放射線技師

2. 研究目的・方法

体位保持困難な高齢者等の胸部単純X線撮影において、医療従事者が介助を行う場面が多くみられます。ICRP勧告により術者の水晶体の等価線量限度が引き下げられ、一般撮影でも介助者の被ばくが問題になると考え本研究に至りました。胸部単純X線撮影における介助者の介助位置による水晶体の被ばく線量を測定し、最適な介助位置に関して検討を行います。方法として1)介助者の水晶体(左右)被ばく線量を測定するため、CT頭頸部ファントムに水晶体の位置になるように線量計を設置し、CT頭頸部ファントムの介助位置を変化させ検討を行います。なお、介助位置はFPDから見て被写体正面を0度として、左右45度から90度の範囲を15度刻みに変化させて測定を行います。

2)介助時の水晶体の高さによる被ばく線量を検討するため、肩甲骨下縁の高さを0cmとし+30cmから-30cmまでを10cm刻みに変化させ検討を行います。その際、被写体と介助者間の距離は50cmを一定とします。

3)放射線防護(鉛ゴーグル)の有無における水晶体(左右)被ばく線量を測定するため、方法1)2)の結果から最も被ばく線量が低い位置において検討を行います。

最適な介助位置を調べます。

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2024年5月30日までとします。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

2019年4月1日から2023年3月31日までの昭和大学横浜市北部病院のルミネスバッチで測定している診療放射線技師の被ばく線量情報。

5．外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

6．研究組織

研究組織は昭和大学横浜市北部病院です。共同研究機関、研究協力機関はありません。

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学横浜市北部病院 放射線技術部

氏名：古谷 由貴子

住所：神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話番号： 045-949-7478